

# ちっご「ふれあいの里づくり」事業（蔵数地区）

## － 10年の歩み－

筑後市 蔵数ふれあいの里づくり会議（たけのこ会議）【自治公民館】

前会長 稲員 庸三

### 1. 事業名

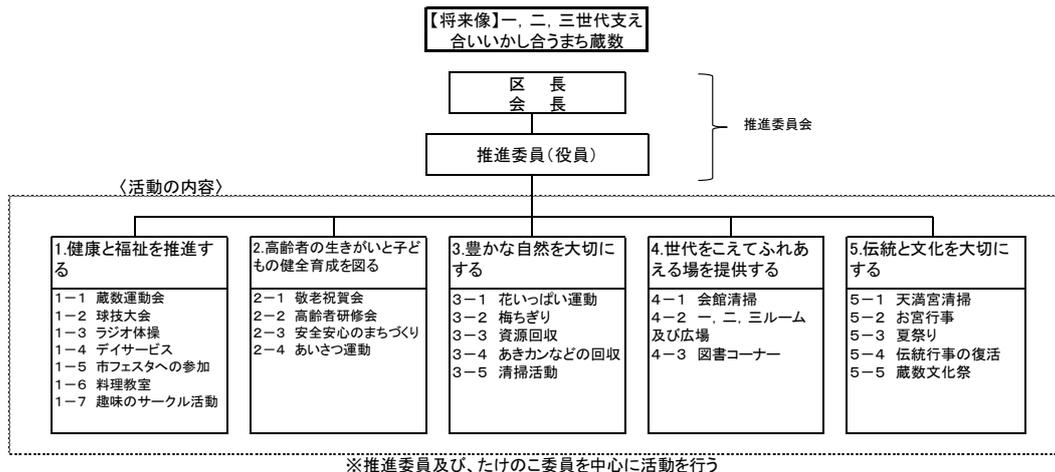
ちっご「ふれあいの里づくり」事業（蔵数地区）

### 2. 事業の目的

「ふれあいの里づくり」事業によって、蔵数行政区のすべての住民（一世代＝高齢者、二世代＝おとな、三世代＝子ども）が互いに支え合い、いかしあうまちをつくる。

### 3. 事業の実施主体（組織及び活動内容）

蔵数「ふれあいの里づくり」会議 組織図及び活動の体系



### 4. 事業の提唱・協力機関

筑後市総務部 協働推進課

### 5. 実施に至る経緯

ちっご「ふれあいの里づくり」事業は、平成15年当時の桑野市長の時代に市内の行政区単位での取り組みが呼びかけられた事業である。

向こう10年間の活動計画を提出し、審査に合格したため、市の事業として許可された。但し、10年間に亘ってその年度の活動実績報告書と翌年度の年度計画を提出し、毎年市の審査を受けることが義務づけられた。

蔵数区においては、平成20年度から本事業に取り組んだ。

### 6. 取組の視点

近年核家族化が進行し、世代間のふれあいが希薄になってきており、高齢者の引きこもりや子ども達のいじめ等の一因にもなっていると思われる。

蔵数区においても、三世代同居の家族が減り、世代間の交流、特にお年寄りとし

ども達とのふれあいが十分とは言えない状況にあった。

そこで、「人々のふれあいを増進することによって自分たちの住む地域を明るく元気にする」という趣旨のもと、各活動（イベント等）への参加者数の目標値を定め、先ずは「参加者数の増大」を図った。

続いて「一、二、三世代間のふれあいの増進」特にお年寄りと子ども達の交流に重点を置いて取組み、さらに「地域全体での取組みの継続」を目指した。

## 7. 取組みの内容（お年寄りと子ども達との交流を中心に抜粋） 【別冊 報告書参照】

### （1）健康と福祉を推進する

#### （1-2）球技大会

毎年秋にグラウンドゴルフを行った。子ども達は、ふれあいの里づくりの開始年である平成20年度は20名の参加であったが、平成26年度はついに1人も参加しなかった。

そこで、平成27年度からは子ども会の行事であるクリスマス会に併せて実施した。初めて経験するグラウンドゴルフで、好プレー、珍プレーを繰り返し歓声や笑い声で大賑わいであった。それ以降は、子ども達の参加は、第二世代の参加者を上回った。

### （2）高齢者の生きがいと子どもの健全育成をはかる

#### （2-2）高齢者研修会・昔話を楽しむ会

高齢者研修会の一つとして、夏休みに子ども達を交えて昔話を楽しむ会を開催した。23年度からは、外部から講師を招いてパネルシアターや紙芝居を楽しんだ。子ども達の参加も次第に増えていった。

#### （2-3）-②安全安心のまちづくり・安全標語募集

平成20年度から「あいさつ」「交通安全」「防犯・防災」を毎年1テーマずつ順送りに募集した。入選11作は、区内11か所に設置したプラカードに2年間掲示し、佳作（約80作）は広報誌「たけのこ」に順次掲載した。

多くの子ども達も応募し、毎年200作の力作が揃い、区民の関心の高さがうかがえた。安全意識向上の一助としても効果的だったと思われる。

### （3）豊かな自然を大切にする

#### （3-2）梅ちぎり

当初梅の収穫は、老人会の単独で行っていたが、ふれあいの里づくり活動を機に子ども達も参加させた。梅の実の収穫だけでなく、梅ジュース造りも行った。

子ども達はこの貴重な体験を通して、豊かな自然の恵みに感謝すると共に、お年寄りの行き届いた管理がそれを支えていることを学んだ。

### （4）世代をこえてふれあえる場を提供する

#### （4-2）1-⑥一二三ルーム及び広場・伝承遊び

平成21年度から毎年実施した。お宮掃除を終えた老人会のお年寄りと子ども達と一緒に楽しんだ。お年寄りも童心にかえりながら、お手玉、ケン玉、いろはカルタ等を子ども達に指導した。また、凧揚げや竹馬遊びなども体験した。子ども達とお年寄りとのふれあいが増進した。

#### （4-3）-①図書コーナー・おはなし会



【おはなし会】

子ども会のクリスマス会や歓送迎会の折に、童話や物語などの読み聞かせ、紙芝居、パネルシアター等を行った。子ども達は興味津々、目を輝かせながら聞き入った。

(5) 伝統と文化を大切にする

(5-4) 伝統行事の復活・もぐら打ち、ほっけんぎょう

1月7日に行った。消防団や老人会、たけのこ委員等が協力して準備した。参加者は平成24年頃から急増し、新年交歓会の様相を呈するようになってきた。



【ほっけんぎょう】

**8. 事業の成果（総括）[別冊 報告書参照]**

(1) たけのこ会館の存在（落成）

平成21年に「たけのこ会館」が落成したことにより、活動にも弾みがついた。蔵数区自体が明るく元気になったように感じられる。

(2) たけのこ推進委員会の活性化

月2回の定例会議を中心に侃侃諤諤（かんかんがくがく）の議論を繰り返すことで、様々なアイデアが生まれた。徐々に区民の理解も進み、積極的な協力が得られるようになった。

(3) 目的と目標のPRにより、「区民が主役のまちづくり」を実感

広報誌「たけのこ」誌上や各イベント等事あるごとにPRを行ったことで、区民一人一人が、「区民が主役のまちづくり」を実感できる雰囲気生まれた。

(4) 活動費の捻出の工夫

工夫して推進委員会で活動費を稼ぎ出した。また、経費節約にも努めた。逆に、本事業の遂行に弾みをつけるような出費には躊躇なく投資した。

それらのことが、本事業の活性化につながった。

(5) 子ども達の成長

まず、保護者の自覚を促したことと参画意識の向上により、保護者の積極的な協力が得られるようになった。それに合わせて、見違えるように子ども達のマナーが良くなり、各イベントへの参加者も増え、何よりも子ども達の表情がいきいきとしてきた。

**9. 今後の課題[別冊 報告書参照]**

(1) 「たけのこ掘り」や「ほっけんぎょう」など、環境の変化等により継続不能な事もあるが、効率がよく効果的な行事を中心に活動を継続していくこと。

(2) 組織を若返らせ、方法等についても時代の流れに沿って新しい切り口を模索しながら変化させること。

(3) 「一、二、三世代 支え合い、いかし合うまち蔵数」という、将来像の達成を目指して進むという基本理念を、ぶれずに末永く継続していくこと。

(4) できる限り子ども達に本活動を体験させること。

**問合せ先**

〒833-0031 筑後市山ノ井 899 番地

筑後市役所 協働推進課 TEL : 0942-65-7065 社会教育課 TEL : 0942-53-2178